

せいけん
詩集

第二十四篇

作：近藤せいけん

「赤トンボ」

秋が深まると 田んぼに

赤とんぼが 山から下りてくる

一団となり 群をつくり

秋の田んぼは 一面 黄金色

「赤トンボはねえ 山にいるときは

黄色トンボ なんだって 知っていた」

「赤トンボが 黄トンボ ほんとう」

「黄金色の田んぼ 黄トンボだと見えなく

なつちやうね」

「そうだよ だから 赤トンボになるのかも」

「それだと 面白いね」

「うーうん 自然で 不思議だねえ」

「黄色トンボ 黄トンボ 赤トンボ」

「さあ 遅くなるから 帰ろう」

初秋の優しい 風が吹きぬけた